

# 原発事故から8年——福島・喜多方の雄

## 『会津電力—Aizu Electric Power Company—』

文 Misao Redwolf 首都圏反原発連合

—NO NUKES ENERGY AUTONOMY!— 首都圏反原発連合は、脱原発とともに、エネルギーの自立を訴えてきました。このたび、再エネ事業の草分け的存在である、『会津電力』の佐藤彌右衛門さんにお話を伺う機会を頂きました。



### いざ、喜多方へ！

福島第一原発事故を受けて、安全対策のために原発の建設費用が高騰し「原発輸出」は全て頓挫、原発は経済的にも立ち行かないことが証明された。最近では原子力規制委員会さえも、テロ対策施設の設置期限に間に合わない場合、稼働中の原発を来年3月から順次運転停止するという。世界では、脱原発、自然エネルギーが主流になりつつあり、明らかに「原発廃炉時代」に突入している。安倍政権による原発推進と「再エネ政策障害」をもとめせず、日本でも再生可能エネルギー発電の事業は全国津々浦々で展開されている。

再エネ事業者の取材をしたいと考えていたところ、『認定NPO法人 いわき放射能市民測定室たちね』事務局長の鈴木薫さんから、『会津電力』見学のお誘いがあった。同行して取材させて頂くために、蔵の街、福島県喜多方市に向かった。『大和川酒造』9代目当主で『会津電力株式会社』取締役会長の佐藤彌右衛門さんが、会津地域初のメガソーラー発電所「雄国（おくに）太陽光発電所」を案内してくださった。発電所は、市街地から山に向かい15分ほど車を走らせた、蕎麦と葡萄の畑が一面に広がる坂の上にある。

## Walk and Talk it 「加害者」は忘れようとし「被害者」は忘れない——映画『手紙は憶えている』



アトム・エゴヤン監督の映画『手紙は憶えている』（2015年）のある登場人物は認知症により記憶を部分的に失っている時間があり、戦時中ナチスとしてユダヤ人虐殺に加担し、終戦の際ユダヤ人と偽ってアメリカへ渡ったことを最後まで思い出せない、という設定になっている。その記憶がないことを物語上のご都合主義だという批判もあるのだが、この作品自体が「加害者」は忘れようとし「被害者」は忘れない、ということの暗示なのだ、と捉えることができる。

今年の7/4、安倍首相は参議院選挙を福島県でスタートさせ、約1分の動画をツイートした。そこには2006年に「日

本の原発で全電源喪失は起こらない」と答弁したことへの謝罪は全くなかった。福島原発事故発生当時、民主党政権へのデマを流し事故対応の足を引っ張った安倍晋三という人物は、認知症という少しは同情の余地がある状態ではなく、平然と嘘をつける人格だ、というしかない。彼が「大衆は時が経てば忘れる」という信条に支えられているのなら、それは彼の周りの政治家・官僚にも伝播しているだろう。彼の時代が終わり別の者が権力の座についても、私たちが「加害者」側でもあるかも、という側面も含め忘れずにいることができるのか、私たちは試されている。（TH）



## 会津電力設立・自治体の独立を目指して

佐藤さんにお話を伺った。2011年3月11日に最初に大きく揺れた時には、まさか原発事故が起こるとは思っていなかった。しかし、原発が爆発してからは、会津にも放射能がくるかもしれないという恐れがわいてきた。冷戦時代を経験した佐藤さんにとって、放射能は脅威的なものとして染み付いていた。そうすると、何代も続いてきたこの酒造もダメになるが、いまい何もしないわけにはいかない。佐藤さんはトラックのガソリンをかき集め、震災の3日後には郡山市や福島市、さらに飯館村にまで酒瓶に詰めた水を選んだ。

長年、飯館の村おこしに酒造りで協力していたが、震災の直前に飯館村を支援する「飯館村までい大使」に任命された。2011年7月に8人のまでい大使が集まり、飯館村を支援する『までいの会』を作った。しかし、飯館だけではなく、福島県全体の声なき声をださなければとの思いで、酪農家や様々な人々と『福島会議』を立ち上げた。そこで、やはり原発はダメだ、自分たちで再生可能エネルギー事業を起こせないかという議論に発展した。こうして佐藤さんは電力会社の設立に向けて動き始めたのだ。

佐藤さんは語る。「会津地域の自治体は、7～8割は国からの交付金に頼っています。再エネ事業でエネルギーの自立をして、安い電力を供給できれば企業の誘致も見込め、雇用も増えて税収も上がります。地産地消、地域主体の協同組合のようなものを作ったかったです。会津は豊かな穀倉地帯で、食物の自給率は100%を上回っています。エネルギーで自立できれば会津は完全に独立できる。会津電力を始めたのは私が60歳の時でしたが、再エネ事業を通じて地域の10割自治を目指し、中央集権の構造を壊してやろうという意気込みでした。東電が独占してる会津の水利権も、いつか取り戻したいと思っています。」

## 佐藤彌右衛門という生き方

原発事故後すぐに被災地に水を運び、飯館村を支援し、福島会議を起こし、会津電力を設立。佐藤さんの行動力と奉仕の精神のモーターは何なのか。江戸時代から続く酒造の9代目当主として『彌右衛門（やうえもん）』を襲名した佐藤さんは、祖父の7代目彌右衛門さんから影響と恩恵を強く受けているという。祖父は、戦時中には地域の役職を務めていた。しかし、正しいことをやりながらも公職追放され、その後は政治的な発言はせずに、地域の教育や文化の社会貢献を続けたという。そうして7代目は、地域で最高の「旦那様」という呼称で、『彌右衛門様』と慕われるようになった。



〈大和川酒造〉

喜多方では、家財用、商売用、座敷用の3つの蔵を建てて、ようやく『旦那』として認められるが、さらに、地域に貢献してようやく『旦那様』と呼ば



れるようになる。稼いだお金を地域社会に役立てる。この積み重ねが、地域の人々からの信用になる。明治の頃には15人の旦那衆が借金をして、喜多方に鉄道をひいてきた。行政がやらないことを率先してやる『旦那衆』は、地域で信用され頼られる存在なのだ。7代目彌右衛門様の孫ということで、地域での信用の土台があったという。会津電力が地域の出資で設立できたのも、こういった背景があると佐藤さんは語ってくれた。

祖父から「生きているうちに「天変地異」「大恐慌」「戦争」という3つのことが起こるから、とにかく覚悟して生きる」と教えられた。それらを体験して、乗り越えてきた上での言葉なのだろう。「戦争はしないほうがいいし、戦争になるような状況は作ってはいけないけど、なぜ人間にはそれができないんでしょうね」と佐藤さんは呟いた。それから、「3つの財産は「土地・建物」「お金」「信用」だが、信用だけはお金では買えない」とも教えられた。これも、7代目が自らの人生で悟ったことなのだろう。地域の人々から尊敬されてきた祖父に連れ歩かれ、佐藤さんは様々なことを学んだという。

## 政治を変えなきゃなんないね

温厚な雰囲気佐藤さんだが、中央集権のあり方への憤りを強く語る。「偽物の民主主義をやったって、国民は豊かにはならないんだから。議員を選出して議会を開いても、投票率なんて低いんだから、本当の意味での代表者が選ばれるわけではないでしょう。民主主義がまったく進化していない。このやりかたではダメなんです、もうじゅうぶんですよ。中央集権で中央が金で地方を締め付ける結果になっている。昔は村長がいて、みんなで最後までとことん話し合ってたんで決めてきたんだ。」

「地域の文化やポテンシャルを生かして、それぞれの自治体が個性をだし、独特の地域づくりをするべきなんです。子育てに力を入れるとか、農業に力を入れるとか、いろいろ可能性はあると思います。なぜそういった地域づくりができないんでしょうか。」「原発じゃなくても再エネで電気を作ればいいんです。小水力・バイオマス・水力・太陽光・風力・地熱で発電はできる。地域分散型で小規模発電所をたくさん作ればいいんです。北海道の地震でも大きな発電所の電源が落ちて広範囲で停電になったけど、小規模分散にすれば大丈夫なんです。」

「大都市には原発が必要というなら、東京の真ん中に原発を作ればいいんですよ。でも、地震は必ずくるし、きたら東京はおしまいだね。原発立地自治体にはお金も下りるけど、危険も一緒に下りてくる。結局、電力会社と国が儲かるシステムで、地方が犠牲になっているんだよね。廃炉には1兆円以上かかるし、廃炉にすると電力会社が不良資産を持つことになるから、国は電力会社を守る。一気に再エネに転換することは可能なのに、政治家や官僚はそれができない。天下りなどの癒着があるからね。政治を変えなきゃなんないね。」

会津電力の戦い、福島の戦いは、私たち全ての戦いだ。

『会津電力株式会社』公式HP <https://aipower.co.jp>

『大和川酒造』公式HP <http://www.yauemon.co.jp>

## NO NUKES PRESS web

記事全文はこちらをご覧くださいませ

<http://coalitionagainstnukes.jp/?p=12844>



## RECORD THE POWER OF THE PEOPLE!

### 2013年7月5日(日) 首都圏反原発連合『脱原発「あなたの選択」プロジェクト2013』開始

2012年12月の衆院選で自民党が与党に復帰、2013年7月に政権交代後初の参院選がありました。首都圏反原発連合では、衆院選の時に配布したフライヤーの2013年参院選版を作成し、50万部ほど配布しました。加えて、「脱原発の政党を選ぼう!」と、街宣や「全国「辻立ち」キャンペーン」を実施。

選挙の結果は「衆参ねじれ解消」、衆参ともに与党が過半数を占めることに。この流れで、2014年4月には「エネルギー基本計画」が改悪されることとなります。しかし、この選挙で東京選挙区から、原発問題を重要視する新人、吉良よしこ氏、山本太郎氏が選出されたことは大きな希望となりました。



## 編集後記

東京電力がようやく、福島第二原発を廃炉にする正式表明しましたが、事故から8年以上たった今、あまりにも遅すぎる決定です。これで福島原発事故後に、8原発15基の廃炉が決まったことになり、再稼働した数を上回っています。確実に「原発廃炉時代」が到来していると言えます。

参院選では、与党改憲勢力の3分の2議席を阻止しました。脱原発を掲げる野党の共闘の成果といえます。しかし、いまだに原発を推進する安倍政権であることに変わりはありません。2年後の、あるいはもっと早くくるかもしれない衆院選に向け、引き続き「原発ゼロ」を訴えていきましょう！原発ゼロ政権の誕生を！